

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人あしづえ	
施 設 名	松江市八雲林間劇場 (しいの実シアター)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	6,228	(千円)
公演事業	4,357	(千円)
人材養成事業	1,154	(千円)
普及啓発事業	717	(千円)







## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価	
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。	
<p>当劇場は、最寄り駅から車で20分移動した都市近郊農村に設置され、周辺には飲食店や宿泊施設はなく、最寄りの商店は4km遠方である。劇場付近を通過するバスは主に通学者や通院者用のため週末や祝日は全面運休し、公共交通機関を使って当劇場に足を運ぶことはできない。このような環境で周囲に人通りはなく、当劇場の事業の魅力と自然豊かな環境の良さで人を集めるしかない。魅力的な事業として、当地では実施がほとんどない海外の定評ある作品の上演（公演事業3 海外秀作公演）、環境の良さを活かした事業として、子ども達との創造活動（普及啓発事業1 しいの実シアター未来学校）などを行っている。</p> <p>また、事業はミッションに即した内容とし、地域の人々と共に独自の劇場文化を創ることを目指している。個別事業のミッションは以下の通りである。</p>	
ミッション	事業名
共に育ち合う劇場	【公演事業】2 幼児のための人形劇公演 【人材養成事業】1 俳優のための演劇創造講座・2 演劇祭アートマネジメント研修 3 高校演劇部支援事業
共に考え行動する劇場	【人材養成事業】4 大学連携 【普及啓発事業】1 しいの実シアター未来学校・2 森のカレッジ 3 コミュニケーションワークショップ
共に夢を育てる劇場	【公演事業】1 地域連携公演・3 海外秀作公演
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
<p>ほとんど全ての事業において、企画立案時から他団体のニーズを聞き取り、連携して事業を行った。具体的には以下の通りである。</p> <p>公演事業1. 地域連携公演は、教育機関と連携し、小学校・中学校単位で演劇鑑賞を行った。各教育機関の事情に合わせ、当劇場での上演と学校の体育館での上演の両方を行った。以前から学校単位での観劇の要望は高かったが、平成28年度にやっと実施できる体制が整い、その後継続実施している。</p> <p>公演事業2. 幼児のための人形劇公演は、幼稚園・保育園・福祉施設と連携し、それぞれの施設から幼児と高齢者が同時に団体観劇を行った。平成13年度から18年間継続実施している。</p> <p>公演事業3. 海外秀作公演は、聴覚障がい者施設と連携し、耳の聴こえない方の団体観劇を行った。ピフォースピーチやアフタートークには手話通訳も入れ、作品を深く楽しんでもらうことができた。</p> <p>人材養成事業4. 大学連携は、大学と連携し、講師派遣やインターンシップ受け入れを行った。大学への講師派遣は、大学生の成長度合いを高く評価され、平成24年度から7年間継続実施している。</p> <p>普及啓発事業3. コミュニケーションワークショップは、児童センター、島根県看護協会と連携し、それぞれ在宅母子や小学生、助産師に対して演劇を活用したコミュニケーションワークショップを実施した。特に児童センターからは、若い母親が地域社会と繋がるきっかけをつくったと高く評価されている。平成24年度から7年間継続実施している。</p>	

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【公演事業】

公演実施後のアンケート結果は、入場率、公演に対する満足度共に目標を上回った。アンケート回収率は 54.8～86.0%である。

事業名		1 地域連携公演	2 幼児のための人形劇公演	3 海外秀作公演
入場率	目標	80.0%	80.0%	80.0%
	結果	109.1%	113.9%	92.8%
満足度	目標	—	90%	85%
	結果	93%	92%	93%

#### (2. 幼児のための人形劇公演)

地域の幼稚園・保育園から、幼児の観劇の機会を確保していることに対し大変喜ばれている。平成 13 年度から 18 年間継続実施している事業で、令和元年度参加した 12 団体中、9 団体が継続参加している。

#### (3. 海外秀作公演)

公演実施後のアンケート結果から、「またノンバーバルの作品を観たい」と回答した観客は目標 85%に対して 89%で達成。「この作品を他の人に薦めたい」と回答した観客は 85%にのぼった。

#### 【人材養成事業】(1. 俳優育成のための短期創造講座)

実施後のヒアリングでは、参加者は想像以上に学ぶことができたと発言しており、この事業がきっかけで、令和 3 年度に講師を演出として当劇場で新作演劇創造を予定することになった。

#### 【普及啓発事業】

##### (1. しいの実シアター未来学校)

子ども達だけでグループ分けをし、オリジナルストーリーを元に演劇作品を創り上げることができた。文化芸術体験を通してコミュニケーション力、想像力、創造力、自分の考えを言語化する力を身に付けることができた。

##### (2. 森のカレッジ)

実施後のアンケート回答から、「こんなに 90 分間のめり込んで聞いた講演はない」「もっと早く聞きたかった」「ぼんやり思っていた不安が明確になり解消された」との声が寄せられ、子どもの成長に果たす文化芸術の役割について広く周知できた。

##### (3. コミュニケーションワークショップ)

在宅母子とデイサービス利用の高齢者とのワークショップでは、高齢者は 0 歳児が泣き出しても、その言動を楽しそうに笑って見ていた。その高齢者の様子に若い母親も安心して参加できていた。共催の児童センター職員から大変喜ばれており、次年度も実施をお願いしたいと言われている。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
 アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【公演事業】 事業期間

事業名	要望書	実績	変更理由
1 地域連携公演	5月～2月 全9回	6月～12月 全8回	学校公演において、2校同時に観劇する調整ができたため回数が1回減った
2 幼児のための人形劇公演	6月 全2回	6月 全2回	計画通り
3 海外秀作公演	7月～8月 全4回	7月 全4回	計画通り

#### 【人材養成事業】 事業期間

事業名	要望書	実績	変更理由
1 俳優育成のための短期創造講座	8月～9月 全3回	8月 全3回	計画通り
2 演劇祭アートマネジメント研修	①11月～3回 全3回 ②7月～8月 全3回	①12月～2月 全4回 ②10月 全2回	①参加希望者が増えたため、実施回数が1回増えた。 ②ボランティアとの関係性を見直す必要に迫られ、より学びを得られる研修場所に変更したため、日程が変わり、回数が1回減った
3 高校演劇部支援事業	1月～3月 全3回	3月実施予定を中止	新型コロナウイルス感染症の影響で中止
4 大学連携	①9月～3月 全5回 ②4月～7月 全13回	①9月 全5回 ②4月～7月 全19回	①計画通り ②大学の要望に合わせて回数が6回増えた

#### 【普及啓発事業】 事業期間

事業名	要望書	実績	変更理由
1 しいの実シアター 未来学校	7月～8月 全3回	7月～8月 全4回	参加希望者が増えたため、実施回数が1回増えた
2 森のカレッジ	5月～12月 全2回	12月 全1回	2講座を実施する予定だったが、講師の体調により1講座は実施できなかった
3 コミュニケーションワークショップ	5月～2月 全2回	5月～12月 全4回	参加希望者が増えたため、実施回数が2回増えた

#### 【公演事業】 収益率

- 1 地域連携公演 13.3%→13.8% 計画通り  
 2 幼児のための人形劇公演 13.8%→31.7% チラシ作成を自前で行い経費を削減した  
 3 海外秀作公演 17.1%→23.6% 広報デザインの一部を自前で行い経費を削減した

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【公演事業】

##### (1. 地域連携公演)

上演する専属劇団あしづえは1966年に設立され53年間継続して活動している。国際交流基金『地域交流振興賞』（現・地球市民賞）、サントリー文化財団『サントリー地域文化賞』、山陰信販株式会社『山陰信販地域文化賞』、中国新聞社『中国文化賞』、文部省『地域文化功労者文部大臣表彰』、島根県『島根県文化奨励賞』を受賞し、文化芸術の力で地域振興をけん引している劇団である。海外上演も多く実施し、アメリカ国際地域演劇祭、カナダリバプール国際演劇祭、カナダ2003世界演劇会議・フェスティバル、ブルガリアにて公演を行っている。

多言語での上演を実施し、作品『セロ弾きのゴーシュ』を日本語+英語バージョン、日本語+ブルガリア語バージョンの2パターンで上演した。

##### (2. 幼児のための人形劇公演)

18年間の継続した幼児対象公演の実績から、地域の幼稚園、保育園、福祉施設、公民館12団体と連携することができ、公演を成功させた。

##### (3. 海外秀作公演)

提携アーティストである出演者のポリーナ・ポリソヴァは、2001年にロシア・サンクトペテルブルク州立劇場芸術アカデミーを卒業。その後、2008年に人形劇芸術高等学院-ESMAM（フランス/シャルルビル・メジェール）を卒業。2010年に人形劇開発・創造センター（フランス・トゥールーズ）に所属。上演作品は2011年に発表し、16カ国・50の国際フェスティバル・演劇祭に参加し、上演を続けており、国際的に評価の高い公演である。

ノンバーバル作品であるため、聴覚障がい施設と連携して公演を行った。ビフォースピーチとアフタートークでは、手話通訳も入れた。

#### 【人材養成事業】

##### (1. 俳優育成のための短期創造講座)

提携アーティストである講師の園山七緒は、1998年より流山児★事務所に参加。2000年9月より1年間、文化庁在外研修員としてカナダ留学。帰国後『若手演出家コンクール2001』で最優秀演出家賞を受賞。主な演出作品に『ヘレンの首飾り』『7ストーリーズ』『橋を渡ったら、泣け』など。一般社団法人日本演出家協会理事。新国立劇場演劇研修所・バレエ研修所非常勤講師。都立蔵合芸術高校非常勤講師。

##### (4. 大学連携)

指定管理団体理事長で講師の園山七緒は、1966年に専属劇団あしづえを立ち上げ、53年間代表・演出として活動している。また、1995年に完成した当劇場には設計・建築から係わり、以降24年間、芸術監督として劇場運営を行っている。地域における劇場の在り方を全国発信し、島根県文化功労者表彰、山陰中央新報社『地域開発賞・文化賞』、ソロプチミスト日本財団『社会貢献賞』を受賞している。2018年度は、文化庁主催『カルチャーニッポン シンポジウム』にパネリストとして参加。令和3年度制定予定の『松江市文化・芸術振興条例』の制定委員をつとめている。



**【普及啓発事業】(2. 森のカレッジ)**

提携研究者で講師の山田真理子は、京都大学で河合隼雄に師事して臨床心理学を学ぶ。九州大谷短期大学幼児教育学科で就業。『保育心理士資格』の設立に尽力する。その後、3ヶ月入学型研修所『子どもと保育研究所ぷろほ』を立ち上げ、保育者のための学びのシステムを作り出している。子どもと保育研究所ぷろほ所長。九州大谷短期大学名誉教授。NPO 法人子どもとメディア代表理事。NPO 法人チャイルドラインももしもキモチ代表理事。

**自己評価**

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

**【公演事業】**

**(1. 地域連携公演)**

地域の学校から、演劇公演を鑑賞したいが、行政が行っている学校公演はなかなか自校の順番が回ってこないという相談を受けた。そこで、希望校の状況に合わせて、当劇場での鑑賞か、希望校での上演のどちらかで演劇公演を鑑賞できる様にした。大変人気があり、全ての希望校に対して実施することはできず、お断りした学校は次年度に実施できるように努力している。

**(2. 幼児のための人形劇公演)**

地域の幼稚園、保育園から、幼児に文化芸術の体験をさせたいが、園独自では難しいと相談を受けた。そこで、当劇場で幼児対象の人形劇公演を実施し、地域の幼稚園、保育園に集まってもらう事業を実施した。貴重な機会であると大変喜ばれ、18年間も継続し続けている。

**【人材養成事業】(4. 大学連携)**

保育士を育成している島根県立大学から、就職3年未満の保育士の離職率の高さを相談された。原因の一つは、先輩保育士や保護者とコミュニケーションをとれない事から発生していると考え、演劇の要素を活用したワークショップを実施した。これにより、最初は人前で話すことに抵抗を感じていた大学生が、他者に自分の考えを伝えたり、相手の話を促しながら会話できたりすることができるようになった。

**【普及啓発事業】(3. コミュニケーションワークショップ)**

- ・学童保育を行っている児童センターから、他学年の児童がなかなか交流できないという相談を受け、年度当初に演劇の要素を活用したワークショップを実施。児童が心を開いて他者と交流できるようになった。
- ・在宅母子の支援をしている児童センターから、引きこもりがちな在宅母子と地域社会とのつながりを作りたいと相談を受けた。そこで、在宅母子、デイサービス施設利用者合同でのワークショップを企画提案、実施した。騒がしい乳児を連れて外出することで、周囲から冷たい視線を受けるのではないかと恐れていた若い母親は、乳児の反応を楽しんでいる高齢者の様子に安堵していた。在宅母子が地域社会に出ていくキッカケづくりに貢献できた。
- ・助産師の教育を行っている島根県看護協会から、助産師のコミュニケーション力を向上させたいと相談を受け、演劇の要素を活用したワークショップを実施。2日間の専門研修の最初に実施することで、その後の助産師同士の交流も深まり、協会の担当者から喜ばれている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### 【指定管理料、設置者からの事業予算推移】

毎年、以下の通り継続して増えており、当劇場の事業成果を高評価されている。事業成果については、年度末の通常報告だけでなく、設置者の予算計画時期前、自発的に中期ビジョンのプレゼンテーションを行っている。

2019年 12,774千円／2018年 12,589千円／2017年 12,589千円／2016年 12,588千円／2015年 11,949千円

#### 【資金、財政支援者の推移】

3年に1度実施する国際演劇祭の関係で、資金は年々違っているが、毎年、一定以上の財政支援をいただいている。支援者には当劇場の取り組みを定期的に報告し、高評価を得ている。また、高額寄付者には、寄付金の使途を提案し、実施後には報告を行っている。

2019年 寄付額 2,370千円 賛助者 250 賛助額 993千円

2018年 寄付額 1,964千円 賛助者 248 賛助額 1,001千円

2017年 寄付額 6,024千円 賛助者 206 賛助額 953千円 <国際演劇祭実施年>

2016年 寄付額 966千円 賛助者 231 賛助額 1,024千円

2015年 寄付額 3,090千円 賛助者 239 賛助額 1,025千円

#### 【ステークホルダー】

(住民) ボランティアとして劇場運営を支援。定期的にヒアリングや勉強会を行い、劇場の使命を共有している。

(企業) 組織の課題解決のため、コミュニケーションワークショップを実施。

また、採用面接にコミュニケーションワークショップを依頼する企業もある。

(海外) ブルガリアの劇団クレドシアター、フランスの俳優ポリーナ・ポリソヴァ、スペインの芸術団体窓口(IKEBANAH ARTES ESENICAS)、カナダのパフォーマンス集団コーパスと連携し、海外劇団の情報交換、交流を行っている。

(小中高等学校) 授業にてコミュニケーションワークショップを実施している。

また、学校単位での演劇鑑賞の機会を提供している。

(幼稚園・保育園) 園単位での演劇鑑賞の機会を提供している。

(行政) 年間2~4人の行政職員を研修として一人6日間程度受け入れている。

#### 【劇場・音楽堂等間のネットワーク】

- ・米子市淀江文化センターと連携し、専属劇団の上演が決まった。新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年5月実施の予定が中止となった。
- ・豊岡市民プラザと連携し、海外劇団共催上演を2020年10月~11月に予定している。

#### 【教育機関（大学等）とのネットワーク】

- ・島根県立大学と連携し、2011年から9年間継続し、大学生に対して『表現・コミュニケーション』講座を実施している。
- ・新国立劇場演劇研修所と連携し、2020年11月に当劇場での合宿、ワークショップの実施を予定している。